

7月上旬 地域で子どもにマスクを

子育て健康課 ☎84-0327

「新しい生活様式」を取り入れ、感染に対する予防啓発のため、町の有志団体と協力し、布マスクを作成しました。作成されたマスクの総数は740枚で、7月上旬から郵送で町内の3、4歳児に2枚ずつ配布しました。

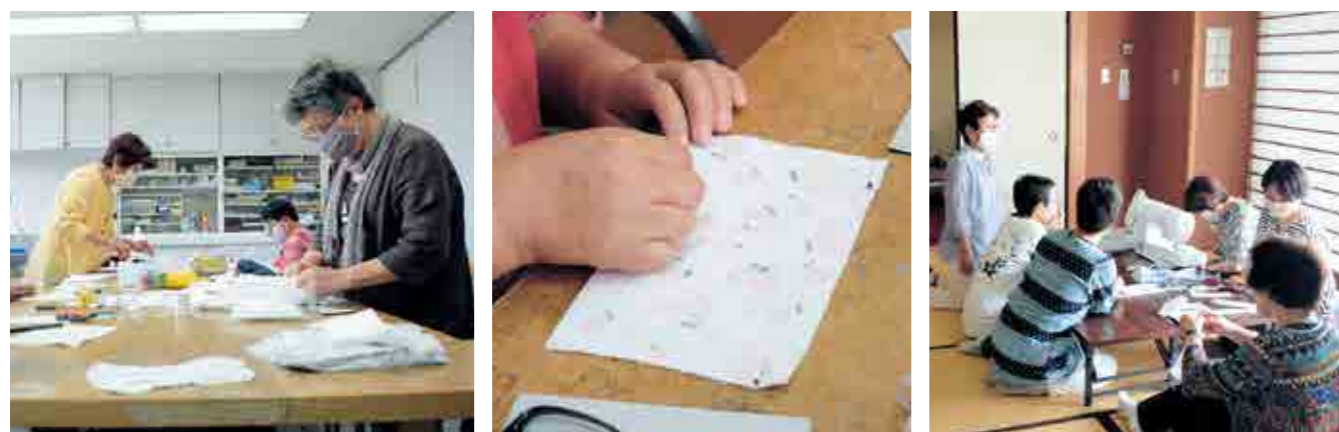
【ご協力いただいた団体(五十音順)】

- ①えがおいっぱい応援団 ②開成町消費者の会
- ③開成町婦人会 ④スマイルビーンズ ⑤ヒマチマ
- ⑥放課後子ども教室スタッフ有志

▼手作りマスクが届いた田中早保さん、識朗くん親子



手作りマスクで
気持ちが温かくなりました！



▲岡野あじさいの里にて

7月上旬 また来年……

産業振興課 ☎84-0317

第33回あじさいまつりと同様に、例年数百人の方が参加されるあじさいの剪定ボランティアも中止としました。あじさいの里には約5,000株のあじさいが植えられていて、その管理はボランティアやあじさいの里親など、多くの人の手によって支えられています。今年は、町内の造園業者によって丁寧に剪定され、また来年きれいに咲かせるための準備が進められています。

7月上旬 発見！金色と青色のカエル

7月4日(土)、開成南小学校1年生の山野愛桜さんが、自宅近くの田んぼで、金色のアマガエル1匹と青色のアマガエル3匹を捕まえました。

その後、青色のアマガエルがさらに2匹加わり、7月13日時点で、計6匹を大切に飼育しています。山野さんは、通常緑色のアマガエルがなぜ色が変わったのか熱心に調べていて、専門家に聞いたところでは、どちらの色のカエルも珍しいとのことでした。



▲金色のカエル

▶青色のカエル



▲カエルを手にする山野愛桜さん

ドメスティック・バイオレンス

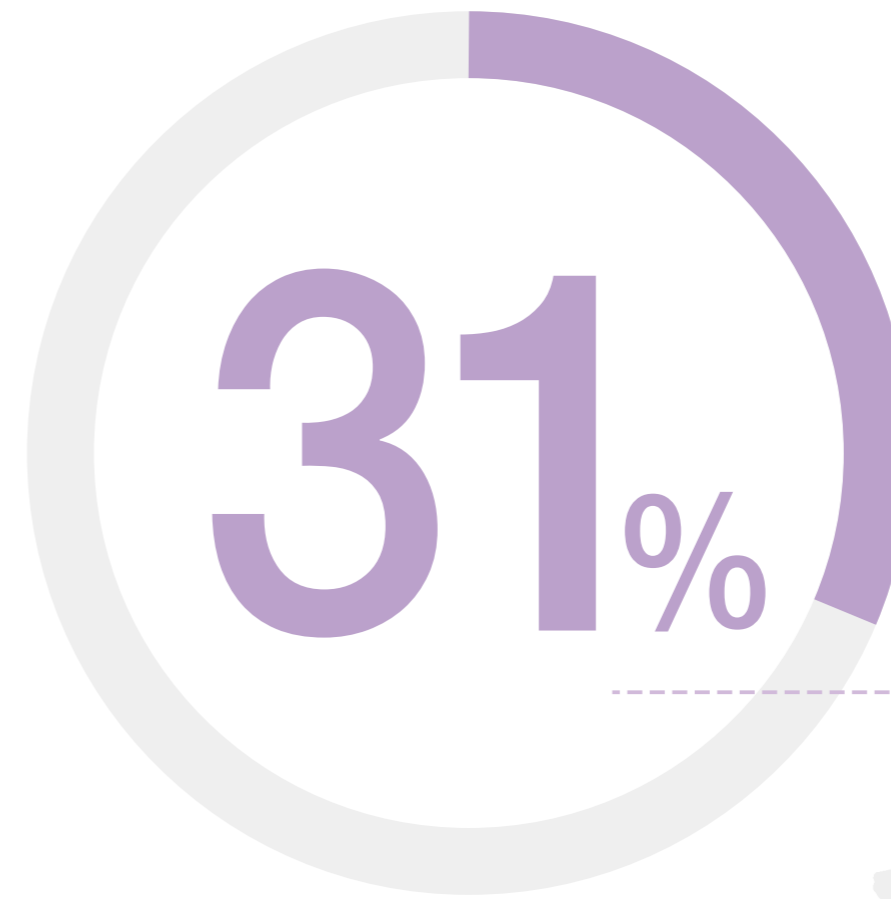
DV

被害者・加害者にならないために

配偶者や恋人からさまざまな形でふるわれる暴力、DV(ドメスティック・バイオレンス)。新型コロナウイルスによる外出自粛や経済・雇用情勢の悪化などの影響により、発生のリスクが高まっています。

決して他人事ではなく、意識せずに相手を傷つけていることも。あなたもDVのことを真剣に考えてみませんか。

福祉介護課 ☎84-0316



DVの相談窓口

女性相談員による相談

0466-26-5550
(平日9~21時、土・日9~17時)

女性への暴力「週末ホットライン」

045-451-0740
(土・日17~19時、祝日9~21時)

男性のためのDV相談

0570-033-103
(平日のみ9~21時)

かながわDV相談LINE

火・木・金・土曜日
(16~21時)



DVの種類

身体的暴力

殴る、蹴る、物を投げつける、突き飛ばす、首を絞めるなど

精神的暴力

暴言を吐く、人前でののしる、行動・交友関係の監視など

経済的暴力

生活費を渡さない、貯金を勝手に使う、働くことを邪魔するなど

性的暴力

性行為の強要、避妊に非協力的、無理やりポルノを見せるなど

DVの発生状況

女性の3人に1人が被害者

平成29年度に内閣府が行った調査によると、女性の31.3%がDV被害の経験があり、13.8%は「何度もあった」と回答。男性が女性から被害を受けるケースもありますが、多くの場合、女性が被害者です。

若い世代でも増加

恋人を暴力によって抑えつけることを「デートDV」と言い、若者の間で増加中。「男性らしく」、「女性らしく」という根強い固定観念から、相手を型にはめ、行動を制限しようとする。しかし、若い恋人同士の場合、愛情表現とDVを混同してしまうことも。



パープルリボンは、女性への暴力根絶を訴えるシンボルです

あなたは悪くない
DVが発生する根本には、暴力によって相手をコントロールしようという身勝手な意識があります。言うまでもなく暴力は到底許されることのない人権侵害であり、親しい間柄でもそれは変わりません。
「自分がされていることはDVかもしれない」と少しでも思ったら、迷わず周囲の人や専門機関に相談しましょう。

繰り返される暴力
身体に危害を加えるなどの目に見える暴力だけではなく、精神的・経済的に相手を追いつめたり、性的な嫌がらせをしたり、表に出にくい行為も同じくDVに含まれます。
近年では、「子どもに危害を加える」と脅す、子どもの口を通じてのしるなど、児童虐待を含んだ悪質な例もあります。
これらの暴力が複合的に行われることも多く、恐怖と無力感から、逃げ出すことができないばかりか、自分が被害者であることを認識できない場合もあります。加害者だけでなく、被害者も冷静な判断能力を失っているのです。